

# 下水処理 省エネ実証施設完成



前沢工業などは埼玉県和光市にある下水処理場に省エネ技術実証施設を完成した。汚水を浄化する際の消費電力や二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量を削減する技術で、2024年度まで実証研究を行った後、国内外で技術の普及を進める。前沢工業の宮川多正社長は完成式典(写真)で「下水道事業の重要課題の一つである脱炭素・省エネルギーの推進に大いに寄与す

## 前沢工業など、埼玉・和光市に

る。技術の実用化に向けてさらなる努力を重ねたい」と話した。下水処理場では反応タンク内の活性汚泥微生物に酸素を送り、汚濁物質を浄化する。人口密集地で使われている水深6メートル以上の深層タンクでは、酸素の泡を出す散気装置をタンク中ほどの深さに設置していたため、酸素が水に溶ける割合が低く浄化効率が悪かった。

前沢工業、日本下水道事業団、埼玉県による共同研究体は、タンク底に散気装置を設置して高圧で酸素を送る技術を開発した。これにより効率的な浄化が期待できる。浄化効率が高まると散気装置の設置数が削減できるほか、装置をタンク底部に設置するため作業者の安全性も高まる。国土交通省の下水道革新的技術実証事業「B-DASH(ビー・ダッシュ)」プロジェクトに採択されており、酸素を送り込むための消費電力など10%以上の削減を目指す。(さいたま)